

2016年度「研修会報告」No.2 (9月～)



◆「研修会」

	開催日	担当	テーマ	参加者
新人研修会	5月11日(水)	望月敏子さん	新会員対象	1名
第1回	6月15日(水)	村松通久さん	海外事情(タイ実践報告) + ランチ会	12名
第2回	9月24日(土)	井上敬子先生	授受表現(やりもらい)	10名
第3回	10月30日(日)	望月敏子さん 飯久保博幸さん	何でも相談室 海外事情(中国実践報告)	16名

◆ 研修会報告 ◆

(1) 第2回研修会：9月24日(土) 13:30～16:00



講師は井上敬子先生です。山梨大学を初め多くの大学で留学生の授業を担当されています。また、各所で日本語教師養成講座の講師も務めていらっしゃいます。

研修のテーマは会員から要望の高かった「授受表現」(やりもらい)です。基礎知識のまとめ、レッスン時の注意点、学習者の誤用例、などを中心に話し合いながら学びました。

「授受表現」は「与え手」と「受け手」の関係によって使い分けるため、敬語(ウチ・ソトの関係)と関連づけて紹介すると受講者が理解しやすくなる、とのご指摘がありました。

* 当日の配布資料より、一部紹介

★授受表現

- ① “物” のやりもらい：「あげる・もらう・くれる」
 - ② “動作” のやりもらい：「～てあげる・～てもらう・～てくれる」(補助動詞)
- * 受け手が、受け取るものを「いいものだ」と感じる時に用いる(プレゼントなど)
- * 例外として望まないものを与えられたときの慣用的な表現がある 例) 風邪をもらった

(途中省略)

★ 「あげる」 「ウチ」・「ソト」の関係を考える

[与え手]

[受け手]

- ・私 (ウチ) → さしあげる → 目上の人/親密度の低い人
- ・私 (ウチ) → あげる → 対等の人
- ・私 (ウチ) → やる/あげる → 目下の人

(途中省略)

★動作(行為)の授受表現 恩恵表現になる

*「～てあげる」「～てもらう」「～てくれる」は補助動詞として使う

*「～してくれてありがとう」感謝の気持ちが表現される

例) 田中君がひらがなを教えてくれた。

(以下省略)

その他、学習者が間違いやすい例として話題にのぼった項目や井上先生からのアドバイスを紹介します。



(1) 「～てさしあげる」は目上の人には直接使わない。

×「先生、荷物を持ってさしあげましょうか」

○「先生、荷物をお持ちしましょうか / お持ちします」

(2) 他者に家族(身内)について話す時は「やる」を使うのが本来の日本語表現だが、最近「あげる」を使う人が多くなっている。場合によっては「×」となるので、注意が必要。

例) 「ポチにご飯をあげたら食べないの」

(3) 「～てもらう」と「～てくれる」の違い

*「～てもらう」：こちらが頼んでしてもらったことに使う

*「～てくれる」：「～てもらう」より感謝の意が込められている

(4) 「ウチ・ソト」の関係はビジネスの世界を例にするとわかりやすい。 例) 上司 → 部下

(5) “横広がりの質問”をして理解を確かめる。 聞いて分かることが大切。

例) 「誰にもらいましたか」「何をもらいましたか」「どうしてあげましたか」 など

(2) 第3回研修会：10月30日（日） 13：30 ～ 15：30

〈第1部〉飯久保博幸さん



2015年8月より約1年間、中国山東省の大学で教えました。学生総数27,000人の大学で、日本人は飯久保さん一人だけ。食事や環境の苦勞も多かったそうですが、長年の教員経験を基に、“楽しい授業”を目指して、様々な工夫をされたそうです。

★持参した物：絵本、新聞（子ども新聞を含む）、紙芝居、チラシ、腹話術の人形など多数

★体験談より

① 持参した物を活用し、学生が能動的に楽しく活動できるように授業を工夫した。楽しい授業ができたと自負している。

自分が楽しもう → 学生も楽しんでくれるだろう

② 初めの1ヶ月は情報が少なく、また家族と離れて寂しくもあった。生活面ではATMの使い方や買い物など、学生に助けられた。

③ 機会はあまりなかったが、旅行好きには魅力的な場所が多い。どこでも寝られる、何でも食べられる人にはたまらないだろう。



〈第2部〉 望月敏子さん



発足以来の会員として、また会長としても長年にわたり会の運営に携わってこられました。そして、80歳を過ぎた現在も現役です。長年の経験を基にお話しいただきました。

(1) 「教材の選択、教材教具の活用、自主教材の作り方と活用」について

★お話の主旨：「テキストを教える」のではなく、「テキストで教える」ことを心がけます。しかし、万能のテキストは存在しません。学習者のレベルや学習目的に応じて、既存のテキストを工夫して使用したり、時には自主教材を作ったりします。自主教材の作り方について実際の手順を紹介のうえ、実物を“本日のお土産”としていただきました。

(2) 「何でも相談室」

参加者がレッスン時の悩みや質問を出し、望月さんを中心に皆で話し合いました。

- * レベル別「会話レッスン」の進め方
- * 仮名がなかなか覚えられない学習者への対応
- * ボランティアの話すスピードについて
- * N2 合格者で、「上品な話し方をしたい」と希望している学習者への対応
- * レベル別、また学習者に応じた教材の選び方、使い方について

その他、参加者からも、インターネット利用の便利な教材の紹介がありました。



(写真：小林、報告：稲谷)